

老齢年金過少支給は130万人にも。上越市内でも被害者 日本共産党議員団は市当局に緊急要請し、被害者へのあたたかい対応求める



支給が本来よりも少なくなったのは、

不利益を被った人は全体で約130万人。関係者の6人に1人の割合だといえます。上越市内でも被害者が出ています。

こうした事態を受けて日本共産党議員団は12日、市に緊急要請しました。要請では、問題が起きた背景を説明するとともに、今回の事態を受けて年金機構が相談のための専用ダイヤルを設けた他、申告書が提出されれば、さかのぼって年金を支給するとしているとして、市役所もホームページや広報などで市民にこうした情報を伝えるよう求めました。

応対した八木健康福祉部長、串橋国保年金課長は、私たちの要請にうなずき、前向きに対応することを約束しました。

第三セクターの経営改善は関係者や地域の声を十分聴いて対応すべき

市議会総務常任委員会が13日、14日と開かれました。初日の委員会で私は、未登記土地問題、第三セクターへの関与方針、域学連携などについて質問しました。

このうち、一番力が入ったのは第三セクターの経営改善事業。市



【キクザキイチゲ】11日、ようやく咲きました。今年は雪がたくさんあったため、開花が遅れました。それだけに紫色のこの花を見たときのうれしさは格別です。キンポウゲ科の多年草。花言葉は「静かな瞳」です。



は9年前と同じ3人の専門家で構成する検討委員会を再度立ち上げ、これまでの取り組みについて検証するとともに、4年前や本年2月の総務省通知に基づき、廃止を含む改革を進めようとしています。最終方針を決定する前に第三セクター関係者、地域の声を十分聞いて対応するよう迫りました。岩野総務管理部長は、検討を約束しました。

大学と地域が連携してフィールド学習や地域おこしなどをする域学連携は市内でも43事例あるとのことでしたが、昨年11月の総務常任委員会の長崎県対馬市での視察

で学んだことを生かして、発言しました。その視察で言われた、域学連携は「生き残りの可能性をさぐっていく」重要な取り組みであるということを指摘し、「43の事例はそれぞれの地域で大きな役割を果たしていると思われるが、市政でも域学連携をもっと重視し、43の間でも情報を共有すべきだ」などとのべて、取り組み強化を訴えました。私の発言を契機に他の委員もこの問題でいくつも質問しました。

消防本部等本體工事は加賀田・田中・中田JVに

上越地域消防事務組合の(仮称)消防本部・上越北消防署庁舎新築工事などの入札結果が12日、明らかになりました。

庁舎新築工事は加賀田・田中・中田共同企業体(JV)が30億800万円(落札率は99.7%)で落札しました。電気設備工事は、田辺・城東共同企業体が3億7600万円(落札率99.5%)で落札、機械設備工事は高菱・セイコウスミダ・関原共同企業体が4億2000万円(落札率96.8%)です。



No.1849 2018.3.18
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四九七回 「コタツのそばで」

今年の冬はコタツに入って、母と会話を
する機会がたくさんありました。といつて
も、母が一方的に話すことの方が多かった
のですが。

私が家に戻るの、たいがい夜の10時
過ぎです。母は電動イスに腰掛けてあるこ
とはまずなく、私がいつも座っている座敷
側の長座布団の上で横になっていきます。

先日の冷え込んだ晩もそうでした。私の
姿を見ると、母は「はあ、どっこいしょ」
と気合を入れながら、左手をコタツのテ
ブルについて立ち上がります。

電動イスに移動してすぐ、母は私に声を
かけてきました。

「とちや、空気冷えてさぶいすけ、コタツ
に体全部入れた方がいい。その方が風邪
ひかん」

そう言われると、電動イスに座る母はど
うなんだと思うのですが、まあ、そこは親
の言うことを聞いてコタツに入りました。

しばらくすると、母が言う通りでした。肩
のあたりが寒くなってきました。

私がコタツに入ってから、母はつぶやく
ような感じで話を続けました。

「この間、めずらしくモコのばちやの夢見
たがど。モコのばちやは、六角提灯つけて
おらちに風呂入りにきになったもんだ。ジョ
コさ連れて。それから、『おらちのジョ
コ、銭送ってくんた』そって、上のばちや
とオレ呼んでくんで、いわし、二匹ずつ焼
いてくんかったこともあったな。モコのば
ちや、昔話してくんになると、のりかず、
座って喜んで聞いていた」

モコや上(かみ)というの、わが家も
三十数年前まで住んでいた蛸場にあった屋
号です。この夜は蛸場の話でした。

母は夜遅くに風呂に入ることが少なくあ
りません。お風呂に入って体を温め、その

まま布団に入りたいのでしよう。その日も
一〇時半近くになつて風呂に向かいまし
た。電動イスから風呂場へ移動するとき、
母は自分が着ている半纏を脱ぎ、コタツに
入っている私めがけて投げていきました。
私に半纏を着ろというのでしようが、いつ
も何も言わずに投げて行くのです。

別の夜のことです。その夜は比較的暖か
でした。いつものように私の長座布団に寝
ていた母が電動イスに移動してまもなく、
家族のものが、「ばあちゃん、風呂、入ん
ないや」と声をかけてきました。

ところが母はすぐには立とうとしません
でした。その日は何かいいことがあったの
か、また、ひとりしゃべりして、なかなか
風呂に入らうとしないのです。

「オオクボのとちやに会いたいなあ」そう
言うと、昔話を始めました。「オオクボ」
というの、大島区竹平にあったUさんの
家の屋号です。

「オオクボのとちやは、(小さいとき)
おつかあ、腹減ったあ、そう言つて泣いて
いたがど。そんで、『のうの』(母の実家
の屋号)に来て、『おじや』食つて、うん
めえと言つてた。オオクボの家、林のそば
で、雪いっぺ降つて、大窓を出さんと家の
中、暗くて大変だった。そんで、下の方へ
行きなつたがど」

突然、「オオクボのとちや」の子ども時
代のことが出てきました。テレビで「葛飾
北斎の娘」をやっていましたので、たぶ
ん、テレビが映し出したものの中に、思い
出すきっかけがあつたのだと思います。

コタツのそばで語る母の話は行つたり来
たり。場面もあちこちに飛びます。それで
いながら、出てくる話はうそっぽくなく
て、親しみを感じます。さて、今夜はどん
な話が出てくるのかな。



初めて白田邸へ

上野議員とともに10日、頸城区森
本にある白田邸を見学してきました。
私は初めてでした。

白田邸は1918(大正7)年に建てら
れた木造2階建。国指定有形文化財に
なっています。入ってすぐ目に飛び
込んだのは大きな梁、高い天井。
そして見事な欄間の透かし彫り。
玉座の間、離れの間などの部屋
はじつに丁寧につくられています。ひと言でいえば、「豪華」でした。写
真にはアップしてありませんが、廊下の一角に道村博さんの「頸城鉄道伝
説」が置いてあり、その写真に引き付けられました。白田さんから出し
ていただいた甘酒も美味しかったです。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシー
ベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり
0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとの
ことです。

	3月7日(水)	3月14日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.047	0.040
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.037	0.043
高士分遣所	0.047	0.040
名立分遣所	0.053	0.053



カーリング女子も登場

白田邸を出て、吉川区の山間
部を抜けて大島区藤尾への雪上
イベントとしてすっかり
定着した「はるのしらせi n7
ジオ」を見に行つたのです。す
でに作り終わっていて、ドロー
ンが上空から写真撮影をしてい
ました。これまで「おーちゃん」の顔のつくりがだいぶ違っていました。冬季オリンピックで話題となったカーリング女子も登場しましたよ。太陽開発(株)の内山さんや藤尾町内会の布施正栄さんなどと話が出来ました。